

## 平成 26 年度 公益財団法人きょうと京北ふるさと公社事業報告書

平成 26 年 4 月 1 日 ～ 平成 27 年 3 月 31 日

(第 2 期)

### I 事業総括

公益財団法人へ移行後 2 期目となる平成 26 年度は、地域に根ざし公益性を重視した事業展開を図るべく、公社事業の柱でもある農地利用集積円滑化事業や、26 年度から実施された農地中間管理機構制度に伴う京北地域の窓口業務を中心に、ふるさと公社の設立目的(優良農地の保全による美しい農山村の景観の維持、中高齢者を中心とした働く場の提供、地域活性化に向けた都市・農山村の交流活動の推進等)に沿った事業展開と年度計画の達成に向け取り組むとともに、地域の任意団体との関りによる活動にも積極的に取り組んでまいりました。

しかしながら、公益事業を補完するための収益事業について、貸館事業(葬祭関連事業)では、葬儀形態の移り変わりにより大きく利用が減少したこと、大型アウトドア施設である「宇津峡公園」については、繁忙期である 8 月に悪天候が続き、予約のキャンセルなどで入園者が少なかったことなどから、当初計画通りの収益を確保することが出来ず、公社全体の運営に大変厳しい状況を及ぼす結果となりました。とりわけ、6 月の雹や 2 年続きとなる 8 月の大雨は、圃場を含め公社の栽培する農作物にも被害を及ぼし、収穫が出来ないあるいは収量の減少を余儀なくされるなど、事業実績の鈍化を招く原因にもなりました。

また、公社運営に於いて必要不可欠な事業所であり、平成 26 年度末で 4 年間の指定管理期間が満了となる「道の駅ウッディー京北」並びに「宇津峡公園」については、競合申請もある中、平成 27 年度以降 4 年間引き続き指定管理者として、京都市からの指定を受けることが出来ました。

京都市へ要望しておりました「道の駅ウッディー京北」トイレの改修については、喫茶の拡大、テイクアウトコーナーの新設と併せ施工いただき、入館者へのサービスと利便性の向上に努めることが出来ました。

なお、ふるさとバスやスクールバスの運行を行っている地域交通事業については、今後の京北地域内の公共交通のあり方を検討するため、平成 26 年度から組織された「京北地域内公共交通事業者連絡会議」での社会実験に於いて、効率的で地域住民に必要な利便性のあるバスの運行を、将来に亘って行うための取り組みにも協力してまいりました。

## II 理事会・評議員会の開催

### 《 理事会 》

第1回理事会 平成26年5月21日(水)

- 1 平成25年度 事業報告書の承認の件
- 2 平成25年度 会計決算報告書の承認の件

第2回理事会 平成26年7月23日(水)

- 1 「定款」の改正の件
- 2 「役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程」の改正の件
- 3 「役員及び評議員選考委員会規程」の制定の件
- 4 平成26年度 補正予算第1号(案)の承認の件

第3回理事会 平成26年11月13日(木) ※ 書面により開催

- 1 辞任に伴う後任監事の評議員会への推薦の件

第4回理事会 平成27年3月10日(火)

- 1 平成26年度 補正予算第2号(案)の承認の件
- 2 平成27年度 事業計画(案)の承認の件
- 3 平成27年度 収支予算(案)の承認の件
- 4 今後の会社のあり方について(確認)

### 《 評議員会 》

第1回評議員会 平成26年5月29日(木)

- 1 平成25年度 事業報告書の承認の件
- 2 平成25年度 会計決算報告書の承認の件

第2回評議員会 平成26年7月30日(水)

- 1 「定款」の改正の件
- 2 「役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程」の改正の件
- 3 「役員及び評議員選考委員会規程」の制定の件
- 4 平成26年度 補正予算第1号(案)の承認の件

第3回評議員会 平成26年11月27日(木) ※ 書面により開催

- 1 辞任に伴う後任監事の選任の件

第4回評議員会 平成27年3月24日(火)

- 1 平成26年度 補正予算第2号(案)の承認の件
- 2 平成27年度 事業計画(案)の承認の件
- 3 平成27年度 収支予算(案)の承認の件
- 4 役員改選に伴う選考委員の選出の件
- 5 今後の会社のあり方について(確認)

### Ⅲ 平成 26 年度 主要事業の概要

#### (1) 農地利用集積円滑化事業

農地利用集積円滑化団体として、農地の「中間保有・再配分機能」を活かし、農地の借り受けや貸し付け、並びに売買等に関わる担い手農家の経営規模拡大や、新規就農者への支援活動に繋げるべく取り組んでまいりました。

公社事業の柱として本事業に取り組み、地域への事業PRと幅広い農地情報の収集のため、空き家の情報収集と併せチラシを作成し配布もいたしました。

また、平成26年度から制度化され、農地の出し手が農地集積の協力者として、協力金を受けることが出来る「農地中間管理機構制度」についても、10月以降本事業のなかで、農家組合や地域からの代表者による協力も得るなか、京都市との連携により京北地域の窓口として、出し手と受け手の掘起こしに取り組んでまいりました。

この農地中間管理機構制度に基づく事業については、地域の方から多くの相談を受け、希望される貸付農地の申請も随時受付けてまいりましたが、その反面公社がこれまで農地利用集積円滑化団体として取り組んできた、農地集積のための利用権設定による農地の貸借や農地売買については、事業の利用が農地中間管理事業へ移行する動向があり実績を残すことが出来ませんでした。

〔農地利用集積円滑化事業実績〕 ※ 平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日迄

◇ 平成 26 年 4 月 1 日現在の継続物件	
一時保有農地件数	0 件
◇ 買入れ農地（田）	
件 数	0 件
※ 買入れ申込み希望	2 件、2 筆（山国）
◇ 売り渡し農地（田）	
件 数	0 件
◇ 平成 26 年度末ふるさと公社一時保有農地（平成 27 度への継続物件）	
一時保有農地件数	0 件
◇ 利用権設定	
件 数	0 件

〔農地中間管理制度による実績〕

◇ 事業に伴う相談等		
相談件数	49	件
◇ 農地貸付希望者数		
申請件数	28	件
合計面積	96,670	m <sup>2</sup>
◇ 農地耕作希望者数（認定農業者、新規就農者等）		
申請件数	6	件

## （２）田舎の便利屋事業

### 【地域担い手確保事業】

地域の方々からの幅広い要望に応えるため、田舎の便利屋事業として多種多様な作業を受託し、一昨年整理を行った人材登録者リストに基づく、登録者への作業依頼により取り組みを進めました。

草刈などの農作業を中心に、出来る限り多くの依頼に応えられるようまた、登録者への依頼も偏ることの無いよう取り組んでまいりましたが、一定期間に亘って多くの人材が必要な作業を受託すると、受託金額に伴う実績は残せるものの、その間の細かな依頼に応えることが出来ないなど、その対応について今後の課題も残すことになりました。

平成26年度の事業実績としては、獣害フェンスの施工作业、屋根の葺き替え工事、行政関係での合同庁舎の清掃業務や水道水質検査、河川環境整備に関わる作業など大口の作業受託も主な要因となり、前述の経過もあり作業受託件数及び延べ人数は、昨年実績を上回ることは出来ませんでした。受託金額については、昨年実績を上回る結果を残すことができました。

- ◇ 登録者数（平成27年3月31日現在）  
158人（60歳以上110人、60歳未満44人、団体等4団体）
- ◇ 受託件数（平成26年4月～平成27年3月末）  
432件（前年度459件）
- ◇ 作業延べ人数（平成26年4月～平成27年3月末）  
2,529人（前年度2,727人）
- ◇ 受託金額（平成26年4月～平成27年3月末）  
32,177,977円（前年度30,080,244円）

### 【農作業受託事業】

農業者(農家)の高齢化による農作業依頼に対応するため、農作業受託部会による春作業(畦付け・耕起・代かき・田植え等)並びに、秋作業(稲刈り・籾運搬・肥料散布・耕起等)の受託に取り組みました。

#### [農作業受託実績]

◇ 春作業 (受託件数 126 件)		
耕 起	28 件	480.91 a (再耕起含む)
代 か き	29 件	523.27 a (ハロー、ロータリー含む)
田 植 え	30 件	556.39 a
畦 付 け	11 件	2,243.80 m
そ の 他	28 件	苗箱代他
◇ 秋作業 (受託件数 117 件)		
隅 刈 り	12 件	18 枚
刈 取 り	32 件	575.63 a
籾 運 搬	38 件	29,931.80 kg (籾乾燥含む)
耕 起	21 件	379.32 a (ディスク、ロータリー含む)
そ の 他	14 件	肥料散布他

### (3) 地域活性化事業

#### 【地域特産物開発研究事業】

京北地域の特産物開発に力を注いでいるグループの加工食品を、道の駅ウッディー京北において積極的に取り扱い、実績も年々増加傾向となっています。

また、「地産地消」と「食育」の取り組みの一環として、京北地域の各小学校や地域の施設へ給食資材として京北産農作物を供給するとともに、京北特産の「まごころ味噌」については、市内小学校へも供給しています。

しかしながら、取扱については野菜の生産に伴う供給側の課題、児童の減少や給食メニューに伴う学校の実情等により、昨年以上の実績を残すことはできませんでした。

他にも、井戸、辻、上弓削にある公社に管理を依頼されている農地において、米、イモ類、豆類、ピーナツカボチャ、大根、白菜、キャベツなどを独自栽培いたしましたが、6月の雹や2年続きとなる大雨、獣害等の被害により壊滅的な状況や収量減収を余儀なくされた作物もあり、計画に基づく学校給食への提供や

ウッディー京北、各イベントでの販売が出来なかったことは、残念な結果でもありました。

なお、依然として端境期に於ける京北産野菜の品不足が、道の駅ウッディー京北の課題であり、生産者への協力依頼と併せ、他府県での取り組みも参考にしながら方策を講ずる必要があるといえます。

- ◇ 道の駅ウッディー京北委託販売者会員数（平成 27 年 3 月 31 日現在）  
171 名
  - ※ 内、生鮮食品販売者 88 名 加工食品販売者 34 名
- ◇ 道の駅ウッディー京北加工食品販売高(平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月末)  
49,029,401 円 (前年度実績 43,859,989 円)
- ◇ 道の駅ウッディー京北野菜販売高(平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月末)  
24,198,637 円 (前年度実績 24,748,360 円)
- ◇ 学校給食地産品取扱高 4,129,702 円 (平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月末)
  - 野菜 577,275 円 (前年度実績 772,275 円)  
納品総重量 1,529.4 kg (前年度実績 1,975.8 kg)
  - 米 57,600 円 (前年度実績 56,160 円)  
納品総重量 144.0 kg (前年度実績 144.0 kg)
  - 味噌 3,494,827 円 (前年度実績 4,707,283 円)  
納品総重量 5,738.5 kg (前年度実績 7,992.0 kg)

#### 【ふるさと振興等調査研究事業】

相談者の京北地域への定住促進を図るため、空き家情報の収集・提供に取り組むとともに、都市住民との交流と地域活性化並びに農地の活用を図るため、8 年目となる「市民農園」の運営に取り組みました。

#### ① 空き家情報の提供による定住促進

京北地域に於ける空き家の有効活用のため、既存のデータを整理すると共に、紹介出来る空き家が僅かであることから、チラシのポスティングにより新規空き家提供者の掘起こしを行いました。

平成 26 年度の定住実績は結果としてありませんでしたが、相談者の要望を満たし、定住に結びつけるためには、住環境に対する課題対策も併せて取り組む必要があり、今後も行政や自治振興会と情報を共有しながら、地域活性化にも繋がる定住促進に向け積極的に取り組みます。

◇ 平成 26 年度取り組み実績（平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月末）

新規空き家登録件数 5 件（空き家登録合計 9 件）

定住者件数 0 件

相談受付件数 23 件

② 市民農園「京北ふるさと農園さんりょう」の利用者拡大と運営

開園 8 年目となる市民農園では、平成 26 年度も農園を通じて都市住民との交流と地域活性化の一環として、土・日、祝祭日を中心に利用者の方々に京北地域へ来ていただけるよう取り組みを進めました。

しかしながら、農園の利用状況については、高齢化等により従来からの利用者の継続利用が減少していることと併せ、複数区画を借りられる利用者も減少していることから、利用区画については、昨年を上回る実績を残すことができませんでした。

新規の応募が開園当初に比べると少なくなっていることから、閲覧の多くなったホームページの活用や、ウッディー京北、区役所窓口での年間を通した PR など、利用者拡大のための検討や取り組みが必要な時期となっています。

恒例となっている秋の収穫祭では、農作物の品評会を行い、昼食時には農園利用者、地元寺山地域の住民の方々、公社関係者、合わせて 54 名が、猪なべや炊き込みご飯で昼食をとりながら、交流を深めることができました。

なお、毎年農園の一角に公社が栽培している「さつまいも」については、ウッディー京北やイベントでの販売、学校給食の食材としての供給を計画していましたが、生育が悪く商品として取り扱うことができませんでした。

◇ 平成 26 年度「市民農園」利用実績

募集区画数 …… 57 区画

利用区画数及び利用者数 …… 34 区画、21 名

※ 平成 25 年度 35 区画、19 名

年間利用料 …… 一区画(約 40 m<sup>2</sup>)当たり 15,000 円

◇ 市民農園でのイベント

収穫祭 …… 実施日：11 月 23 日

参加者：54 名(農園利用者、地域住民、関係者(京都市、JA、公社))



### 【都市と農山村交流事業】

都市住民との交流により地域活性化を図るため、年間計画として市民農園や道の駅ウッディー京北等でのイベントを開催し、都市住民を京北地域に呼び込むとともに、他地域でのイベントにも積極的に参加し京北地域のPR活動に努めました。

[平成26年4月～平成27年3月末 主催イベント]

#### ◇ 市民農園 (1回)

- ・ 11月23日 市民農園収穫祭  
内容：品評会、昼食を囲んでの交流、ポン菓子

#### ◇ 道の駅ウッディー京北 (3回)

- ・ 8月3日 道の駅ウッディー京北 夏まつり  
内容：アユの塩焼き店頭販売、
- ・ 9月27日 秋の美味いもん市  
内容：南幌物産展  
さきがけセンター、京蕪庵、ポン菓子店頭販売
- ・ 12月29日 歳末感謝祭  
内容：餅つき

[平成26年4月～平成27年3月末 参加イベント]

#### ◇ 京北地域内 (1回)

- ・ 11月3日 京北ふるさと祭り  
内容：野菜販売、鹿肉カレー販売

#### ◇ 京北地域外 (2回)

- ・ 10月25日 右京区民ふれあいフェスティバル (太秦安井公園)  
内容：野菜販売、事業紹介
- ・ 11月8日 京の農林秋まつり (大原野 境谷公園)  
内容：野菜・玉子かけごはん・かぼちゃスープ販売

## (4) 地域交通事業

### 【京北ふるさとバス】

道路運送法に基づく過疎地有償運送事業者として、また地域唯一の公的生活

交通手段として、京都市との連携のもと地域住民の安全・安心な“足”となるよう、ふるさとバス運行に取り組んでまいりました。

年間を通じて無事故で安全なバス運行を行い、地域から信頼され愛されるバス事業に取り組めるよう努めるとともに、地域バス案内所に於ける、京北地域の交通案内や観光に関する問い合わせ対応をはじめ、定期券の発券、共通回数券の販売など、利用者の利便性を図りながら、乗車人員の減少を防ぐための取り組みも継続して行ってまいりました。

そのような経過のなか、地域の実態としては少子高齢化で、人口減少に歯止めがかからない現状であり、中学生の通学に伴う乗車が、ふるさとバスの運行実績に大きく影響することとなっている状況に変わりはありませんが、平成26年度については、乗車人数は昨年よりも若干少なかったものの、運行収入については、通勤で利用いただいた固定の乗客がおられた事などから、昨年実績を上回ることができました。

しかしながら、バス車両の維持管理に伴う修繕費等の経費は費用の20%余りを占めており、予想外に高額な修理も発生することから大変厳しい運営状況となっています。

なお、地域の重要な生活交通手段として、ふるさとバスの運行を存続していくため、京都市が中心となり京北地域内の公共交通事業者と検討を行う、「京北地域内公共交通事業者連絡会議」が設けられ、計8回の検討会議が開かれるなか、11月にはふるさとバスとスクールバスの混乗化と、買い物支援に伴うバス運行に於ける社会実験が行われ、効率的で地域住民に必要な利便性のあるバスの運行を、将来に亘って行うための取り組みとして、協力してまいりました。

◇ 平成26年度運行実績（平成26年4月～平成27年3月末）

乗車人員 67,089人（前年度実績 67,223人）

運行収入 17,316,650円（前年度実績 16,929,994円）

【スクールバス】

京北地域の児童生徒の通学及び教育活動のため、京都市教育委員会から全面委託を受け、1,897万3,000円の委託料により、スクールバス運行を行ってまいりました。

学校や京都市教育委員会との連携を密に取りながら、ふるさとバス同様安全運行を第一の目標に掲げ取り組み、事故を起こすことなく一年間運行することができました。

## (5) 公共施設管理事業

### 【地域特産物需要拡大センター「道の駅ウッディー京北」管理運営事業】

平成 23 年度より 4 年間の、京都市指定管理者制度に基づく指定管理者としての最終年度であり、「道の駅」としての三つの機能(休憩機能・情報発信機能・地域の連携機能)を果しながら、京北地域の中心に属する地域の拠点施設として、施設の管理運営事業に取り組みました。

ウッディー京北は、地域活性化や地域振興に関する公益的な事業部門と、喫茶に関する収益事業部門に分かれており、職員配置を含めた組織体制の見直しも行うなかで、課題となっていた経費の削減や費用対効果も追及しながら健全な運営に向け取り組みました。

土・日・祝祭日の天候により、来客数と売り上げ実績が影響を受ける事業所でもあります。平成 26 年度の実績としては、入館者及び売上高ともに昨年度を上回る実績を残すことができ、特に、総売上げは過去最高の 1 億 3,980 万円余りの実績となりました。

なお、施設改善として要望しておりましたトイレの改修(狭い、数が少ない等)については、京都市により平成 26 年度に改修いただきました。

- ◇ 道の駅ウッディー京北入館者数(平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月末)  
391,807 人(前年度実績 387,816 人)
- ◇ 道の駅ウッディー京北売上高(平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月末)  
139,840,131 円(前年度実績 138,032,012 円)
- ◇ 年間レンタサイクル貸し出し実績 71 台

### 【宇津峡公園管理運営事業】

平成 23 年度から 4 年間の、京都市指定管理者制度に基づく指定管理者としての最終年度であり、都市住民との交流拡大施設としてまた大型アウトドア施設としてコテージ、キャンプ場等の管理運営事業に取り組みました。

しかしながら、平成 26 年度は 7 月までは前年を上回る利用で推移していましたが、シーズン中最も利用の多い 8 月に雨天が多く、予約キャンセルが相継いだこともあり、8 月の昨年対比 2,000 人の利用者減が、結果的に年間を通じた利用者実績並びに収入実績に大きく影響を及ぼす結果となりました。

また、課題となっている冬場の施設利用については、企画も試みましたが、結果として利用をいただくことには繋がらず、取組み方法や内容について検討を深め、次年度以降取り組む必要があります。

宇津峡公園の管理運営事業は、公益事業を補完する収益事業として重要な位

置付けの事業であり、平成 27 年度以降の 4 年間改めて指定管理者として指定も受けるなか、今後も安定的な収益確保を目指し取り組みます。

- ◇ 宇津峡公園入園者数（平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月末）  
11,776 人（前年度実績 13,619 人）
- ◇ 宇津峡公園収入金額（平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月末）  
19,848,733 円（前年度実績 21,949,986 円）

## （6）葬祭関連事業

収益事業として公益的な事業を補完し、ふるさと公社の安定経営に向けた財務基盤を確立するため、貸館事業として取り組んでまいりました。

地域の高齢化が進み住民意識も変化するなか、葬儀形態も大きく移り変わりをみせ、小規模で費用も抑えて執り行われる家族葬が増えている現状にあります。

そのような状況のなか、公社としてもこれまで告別式当日の初七日法要対応や、マイクロバスによる火葬場への送迎など、利用いただく地域の皆様に利便性を感じていただける運営となるよう取り組んでまいりましたが、平成 26 年度に於いては、年間の平均である 38 件前後の利用を大きく下回り、収益確保のための収益事業として公社全体の運営に大きく影響を及ぼす結果となりました。

利用者ニーズのある家族葬対応や、施設については老朽化に伴う小規模な設備改善により、気持ちよくご利用いただくための対策が必要となっています。

- ◇ 会場利用実績
- |                                 |       |
|---------------------------------|-------|
| 平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月末までの利用件数 | 31 件  |
| オープン(平成 16 年)以降の累計              | 407 件 |

## （7）農産物処理加工施設整備事業（大豆の里京北「第 6 次産業」化拠点施設整備事業）

平成 24 年度に施設が完成し、施設名称を『山国「水・土・里の館」』として、京北まごころみその生産を中心に、納豆餅やその他農作物の処理加工に取り組んでいます。

実質の管理・運営は山国さきがけセンターが行っており、公社としては事業主体として、施設に関連する減価償却などの事務処理関係についての役割を担っています。

《参考》 平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月末までの京北まごころ味噌加工実績

仕込実績 8,000 kg

売上実績 7,783,000 円

## (8) 合併記念の森創設事業

京都市からの委託事業として、昨年に引き続き臨時職員 1 名を週 2～3 日間勤務で雇用し、合併記念の森内の管理道路、歩道、建物管理等通常の維持管理や、災害による倒木処理、崩土除去等の復旧に伴う土木工事等に取り組むとともに、年間 2 回実施される森作りイベントにも積極的な協力を行いました。

◇ 委託料 2,033,640 円

## (9) 総合獣害対策モデル事業

平成 26 年度は緊急雇用事業としてではなく、地元猟友会の事務局を受け持つなかで、特に有害獣捕獲後の埋設処理場の設置について、京都市から委託を受け取り組みました。

地域の皆様方の協力も得て、黒田、山国、弓削、細野に 1 箇所ずつ埋設処理場を設置いたしました。

◇ 委託料 1,600,000 円

## (10) 緊急雇用対策事業

### 【京北地域農地集積人材育成事業】

京北地域が抱えている農業の担い手不足や、遊休農地の増加に対する課題対策のため、担い手農家への農地集積や農家の経営安定、農業経営の効率化等を進めることを目的に取り組みました。

平成 26 年度 7 月からの新規事業として、臨時職員 3 名を雇用し(平成 27 年 3 月からは 2 名追加)、公社の事業である「農地利用集積円滑化事業(農地中間管理事業含)」との関連のなかで、農地の耕作条件や集積に伴う調査を行うとともに、空き家を活用した新規就農者への住居の斡旋等を行ないました。

また、今後の公社の事業運営の参考にするため、地域農業にとって深刻な被害をもたらしている、シカやイノシシ等の有害獣について、捕獲後の利用に於ける先進地への視察研修や、端境期に於ける野菜の生産・販売について学ぶた

めの視察研修にも取り組みました。

農業に興味を持っていただくきっかけ作りとして、北桑田高校1年生普通科の生徒50名と取り組んだ、公社の畑での白菜、キャベツ、大根の定植と収穫体験は、家庭でも土に触れたことのない生徒も多い昨今、自然相手の物作りの楽しさや厳しさを学んでいただけ、学校のキャリア教育に於ける総括のなかで、90パーセント以上の生徒に満足いただいた取り組みとなりました。

◇ 委託料 9,100,000 円